KTMS
KOBE TOYOPET MOTOR SPORTS

SUPER TAIKYU
RACE REPORT 2021

スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook
第 1 戦 もてぎスーパー耐久 5Hours Race

2021 年 3 月 20 日(土)～21 日(日)
ツインリンクもてぎ（栃木県）
入場者数：3 月 20 日　4,800 人
3 月 21 日　4,200 人

GR YARIS での新たな挑戦はじまる
雨中の展開を制し ST-2 クラスデビューウイン！

FREE PRACTICE

2020 年、スーパー耐久シリーズに挑戦を開始した KTMS は、若き 3 人のドライバーたちが ST-4 クラスの KTMS 86 のステアリングを握り、光るスピードをみせてきた。迎える参戦 2 年目の 2021 年、KTMS は新たな挑戦を開始することになった。車両を世界中で高い評価を得るトヨタ GR YARIS にスイッチし、より高みを目指し ST-2 クラスに移行することになったのだ。ドライバーは、2020 年同様野中誠太、平良響、そして翁長実希という才能あふれる 3 人がドライブする。

今季投入する KTMS GR YARIS は、まずは第 2 戦まで使用する予定であることから、純白のボディでこれまで公式テストから過ごしてきた。迎えた第 1 戦の舞台はツインリンクもてぎ。3 月 18 日（木）の特別スポーツ走行から 3 人のドライバーが交代しながらステアリングを握り、3 月 19 日（金）の午前 10 時 40 分からのグループ 1 の専有走行に臨んだ。ここでは野中、平良、翁長と交代しながら 18 周をこなし、平良が 2 分 06 秒 094 というベストタイムをマーク。ST-2 クラス 2 番手につける。

午後 2 時 30 分から行われた 2 時間の専有走行は、全クラス混走。KTMS GR YARIS は平良から走行をスタートし、翁長、野中、ふたたび平良、そして最後は翁長で締めくくるというプログラムで順調に専有走行を締めくくった。2020 年にドライブしていた KTMS 86 と、今季の武器である KTMS GR YARIS は大きく性格も異なるが、3 人のドライバーはテストからこの専有走行までを使ってフィーリングを少しずつつかみ、公式予選に向けて戦える手ごたえを得ていた。

3月19日　スーパー耐久 STEL 専有走行 Gr.2　Gr.1/Gr.X

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	32	ORC ROOKIE Racing GR YARIS	2'05.280
2	225	KTMS GR YARIS	2'06.094
3	6	新菱オート☆ NEOGLOBE ☆ DXL ☆ EVO10	2'06.317
4	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	2'07.537
5	7	新菱オート☆ VARIS ☆ DXL ☆ EVO10	2'07.795

3月19日　スーパー耐久 STEL 専有走行 全クラス

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	225	KTMS GR YARIS	2'05.813
2	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	2'05.932
3	6	新菱オート☆ NEOGLOBE ☆ DXL ☆ EVO10	2'06.522
4	32	ORC ROOKIE Racing GR YARIS	2'07.223
5	743	Honda R&D Challenge FK8	2'09.136

神戸トヨペット

KTMS
KOBE TOYOPET MOTOR SPORTS

SUPER TAIKYU
RACE REPORT 2021

QUALIFY

3月20日（土）の予選日は、やや雲が多くなっていたものの、雨は降らずドライコンディションのなかで午前9時40分からウォームアップ走行が行われ、KTMS GR YARISは50分間の走行のなかで、フルコースイエローの訓練などを行いながら、午後1時30分からの公式予選に臨んだ。

まずはAドライバーの野中が2分05秒416をマークし、クラス3番手につける。さらにBドライバーの平良は2分04秒663で3番手に。KTMS GR YARISはクラス3番手につけることになった。また、Cドライバー予選に臨んだ翁長は、2分06秒951というタイムで、こちらもクラス3番手という結果を残した。

アタックとしてはトップとのタイム差があり、3人とも不満がありそうではあったが、これまでの専有走行で得たKTMS GR YARISの習熟が、まずは形になった予選となった。

3月20日　スーパー耐久 ウォームアップ走行

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	32	ORC ROOKIE Racing GR YARIS	2'05.534
2	225	KTMS GR YARIS	2'06.416
3	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	2'06.733
4	7	新菱オート☆VARIS☆DXL☆EVO10	2'07.265
5	6	新菱オート☆NEOGLOBE☆DXL☆EVO10	2'07.963

3月20日　スーパー耐久 公式予選 A Dr./B Dr.

Pos.	No.	Car Name	Total Time
1	32	ORC ROOKIE Racing GR YARIS	4'07.637
2	6	新菱オート☆NEOGLOBE☆DXL☆EVO10	4'08.549
3	225	KTMS GR YARIS	4'10.079
4	7	新菱オート☆VARIS☆DXL☆EVO10	4'11.240
5	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	4'11.453

RACE

迎えた3月21日（日）の決勝日。しかし、事前の天気予報どおりこの日は全国的に天候が荒れ模様で、ツインリンクもてぎも朝から風と雨が強く、走る側にとっても観戦する側にとっても非常に厳しいコンディションとなっていた。また今季から使用するハンコックのウエットタイヤをほぼすべてのドライバーが経験しておらず、急遽事前に15分のウォームアップ走行が設けられた。

スタート時こそ雨が小康状態となっていたが、路面はフルウエット。クラスポールポジションの#32 GR YARISがピットスタートとなったことから、KTMS GR YARISはクラス2番手から、野中がステアリングを握りスタートした。コース上の水量がしばしば変わることからラップタイムは変動するが、極めて安定したペースで野中はレースを進めると、14周目にはクラス首位だった#6ランサーをパス。ST-2クラスのトップに浮上する。

その後も安定したラップを刻んだ野中は、ちょうど1時間10分となる28周を終えピットに戻り、平良に交代。前輪のみの交換でピット作業の短縮も図った。しかしこの頃になると雨脚が強くなりはじめ、スピンやコースアウトが続出。ST-2クラスのライバルたちにもトラブルやグラベルストップが相次いでいった。

そんななか、クラス首位を快走していたKTMS GR YARISにもトラブルが襲いかかってしまう。エンジンの調子がいまひとつなのだ。仕様は違えど、同じ車両の#32 GR YARISにも同様のトラブルが発生していたが、チームは長年レースを戦ってきた経験から異なる修復の判断を下し、47周を終えた平良をピットに呼び戻すと、急遽KTMS GR YARISのエンジンルームを開け対処。素早くコースへと戻した。

そしてこの対処が功を奏し、平良が駆るKTMS GR YARISはその後は順調にラップを重ねていった。ただ、強まる雨のなかさらにコース上の各所でコースアウトが相次ぐ。この状況のなか、55周目からセーフティカーが導入される。平良はこの状況に冷静に対応すると、65周を終えピットイン。翁長に交代した。

翁長はレース直前のウォームアップでもわずか1周しか走行しておらず、緊張するシーンではあったが、雨量はさらに強まっていく。幸いというべきか、レースはふたたびセーフティカーランとなった。

しばらくセーフティカーがコース上に留まっていくが、午後3時25分、レースの3分の2を消化していた段階で、天候の回復を待つべく赤旗が提示され、レースは一時中断。さらにその後、午後4時に天候の回復が見込めないとされ、その時点で終了することになった。そして、その段階でST-2クラスの首位にいたKTMS GR YARISは、クラスを移行しての開幕戦で見事スーパー耐久における初優勝を遂げた。

ST-4で戦っていた昨年も成し得なかった優勝は、ライバルのトラブルなどがあったとは言え、チーム一丸となって掴みとった成果なのは間違いない。チームスタッフは雨のなか戦いきった疲れを浮かべながらも、優勝という結果を残しホッとした表情をみせた。そして、ドライバー3人がしっかりと戦いきった最高の結果だ。若き3人は、栄光のウイナーに与えられる『1st』と刺繍が入ったキャップをかぶり、最高の笑顔をはじけさせた。

神戸トヨペット

DRIVER'S VOICE

野中 誠太　SEITA NONAKA

正直、この開幕戦に向けて未知数なところばかりだったので、こうして優勝できるとはまったく思っていませんでした。なので、素直に優勝は嬉しいですね！　GR YARIS はまだ慣れのせいか難しいところもあり、ドライでは不安もありました。しかし、四駆ということもありウエットではすごく安定しており、自信をもって周回することができました。もちろん今回はラッキーも多かったですし、ドライでは足りないところもたくさんあったので、今後もそこを追求しつつ、まずは富士 24 時間での優勝、そしてチャンピオン争いができるよう、今後もがんばっていきたいと思います。

平良 響　HIBIKI TAIRA

優勝できて本当に良かったです！ ウォームアップではフロントタイヤが減る傾向がみられたので、そこはドライバー同士でしっかり温存するよう情報交換をし、ペースを落とさずに最後まで走ることができました。また週末を通して見ると、チーム一丸となってセットアップを進めてきたのですが、予選では差もついてしまったので、まだ負けているところもあると実感しています。しかし、僕たちが苦しいところも分かっているので、それを解決できればしっかりライバルとも戦えるはずです。今後も気をゆるめることなく、しっかり課題をもって次戦に挑みたいですね。

翁長 実希　MIKI ONAGA

スーパー耐久での初優勝なので、すごく嬉しいです！　レースではふたりが事前に、フロントタイヤの攻撃性について指摘してくれていたので、その点をしっかりと意識して走りました。まだまだクルマについてはチームがやりたいことをすべてできているわけではないので、まだ伸びしろはあると思っています。ドライバーも四駆の経験があまりない中でのレースだったので、自分たちもまだ伸びることができると思います。予選ではライバルが速かったので、まだ課題はいっぱいありますね。今後テストもあるというので、ドライバーもクルマもしっかり煮詰めていきたいと思います。

3月21 日　スーパー耐久 決勝レース結果

Pos.	No.	Car Name	Laps	Delay	Gap	Total Time
1	225	KTMS GR YARIS	74			3:18'49.906
2	7	新菱オート☆ VARIS ☆ DXL ☆ EVO10	73	1Lap	1Lap	3:18'26.651
3	743	Honda R&D Challenge FK8	73	1Lap	38.864	3:19'05.515
4	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	72	2Laps	1Lap	3:18'18.514
5	6	新菱オート☆ NEOGLOBE ☆ DXL ☆ EVO10	72	2Laps	12.005	3:18'30.520
6	32	ORC ROOKIE Racing GR YARIS	66	8Laps	6Laps	3:19'56.692